

## 広島県北広島町におけるクロハラアジサシの記録

荒木 信

荒木医院

The First Record of the Whiskered Tern *Chlidonias hybrida* from Kitahiroshima-cho, Hiroshima Prefecture

Makoto ARAKI

**Abstract** : The Whiskered Tern *Chlidonias hybrida* was recorded first, from Kitahiroshima-cho, Hiroshima prefecture, on July 2009.

### 報告

クロハラアジサシ *Chlidonias hybrida* はクロハラアジサシ属 *Chlidonias* に属し、この仲間は他にハジロクロハラアジサシ *C. leucopterus* ハシグロクロハラアジサシ *C. niger* の2種が知られている。近年、クロハラアジサシの仲間はヌマアジサシ Marsh Tern または Lake Tern と呼ばれ、その他の海産アジサシ類 *Sterna* は Sea Tern として二分されている (Harris *et al.*, 1993, Svesson *et al.*, 1999, Sinclair & Ryan 2003)。しかし、国内ではウミアジサシという呼び名で扱われることはない。これらのグループをその生態から二分することはバードウォッチャーには便利である。

東アジアにおけるクロハラアジサシの分布は図1に示したとおりで (高野 2007)、国内では旅鳥とされている。

ヌマアジサシ類の生息環境は、海に近い湖沼、池、河川、湿地、干潟、水田、ハス田等が挙げられている。国内ではクロハラアジサシは西日本に多く見られ、奄美大島、南海諸島に記録が多い。霞ヶ浦では少数の個体が越冬しており、茨城県版レッドデータブックでは危急種に選定されている (茨城県 2000)。繁殖期は6～7月とされているが、国内でのほとんどの記録は5～9月で、6月に最も多い。

県内では、広島市の八幡川河口、太田川、福山市の箕島、高西町、安芸津町風早、三次市で記録がある (漆谷 1996, 日本野鳥の会広島県支部 2002)。中国地方では岡山県、鳥取県、山口県で記録がある。これらの記録はすべて沿岸部に限られており、内陸部の記録は見当たらないので、内陸部からの記録として報告する。

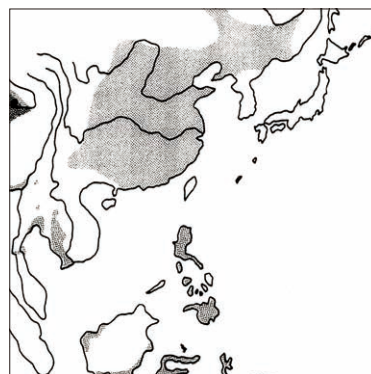


図1 クロハラアジサシの分布 (高野 2007 より)



図2 クロハラアジサシが飛来した水田

ヌマアジサシ類は沼沢地の水草の上に巣を造り、餌は昆虫類、魚類、甲殻類である。また、空中でも昆虫を捕食する。アジサシの採餌法は三通りあるが (Sibley 2001)、ヌマアジサシ類は水面から餌を嘴でつまみ上げる動作が目をはくためか、つまみアジサシと呼ばれることがある (大西 2009)。

観察日時は 2009 年 7 月 5 日の 11 時～13 時、天候は曇りで無風、気温は 22℃である。観察場所は広島県山県郡北広島町西八幡原 (N34° 42′ 57″, E132° 10′ 46″, 標高 780m) の太田川の支流である柴木川上流域にある湛水した休耕田である。水田地帯の中に休耕田と畑が散在している (図 2)。

湛水した休耕田 (40 × 150m) の上空 10m を水平に飛ぶカモメらしい鳥を発見した。全体にうすい灰色を帯びた白色、翼は細長く、頭頂部と腹は黒く、尾は短い凹尾であった。クロハラアジサシ類のうち、白い頬髭部が目立ったので、クロハラアジサシであることが識別できた。成鳥の夏羽と比較すると、背と翼の黒色が淡いこと、嘴、上胸部が白っぽいこと、腹は全体に黒くないことから第一回夏羽であると考えられる (Beaman&Madge 1998)。

湛水した水田を離れて飛ぶことは少なく、水田から 30m 以上の距離をおくときは高く水平に飛び、ツバメ *Hirundo rustica* がつきまとうことが多かった。ツバメよりも直線的には速いが、小回りはきかないように見えた。湛水した水田の上を 3～4m の高さで飛び、水面上 1m 以下でホバリングして、水面に嘴を入れたが、水中に脚や体が入ることはなかった。水面の円形の波紋は数 m 以下であった。

水田の中に降り立ち休息をとったときは、羽づくろいが見られた。嘴は暗赤色、跗蹠は僅かに水面上に見えたが、赤色を帯びた黒色であった。歩行はホッピングもウォーキングも見られず、体の方向を変えるとき脚は動かしたが、稚拙であった。

水面上か水面直下で採った餌は、嘴より小さく、飛びたつた時、嘴にオタマジャクシをくわえていた。鳴き声は出さず、畑や草地に降り立つことはなかった。トビ *Milvus migrans* やハシボソガラス *Corvus corone* の接近にも警戒心は弱いようであった。この水田の畦には、八幡原では稀なアマサギ *Bubulcus ibis* の成鳥 2 羽と若鳥 10 羽の群れがいた。トビやハシボソガラスの接近で 12 羽のアマサギが一斉に飛び立ったが、そのつど元の畦に戻ってきて、クロハラアジサシとともに、この水田に執着していた。

翌 7 月 6 日には、クロハラアジサシもアマサギも見られなかった。7 月 4 日にもこの 2 種は見られていないので、

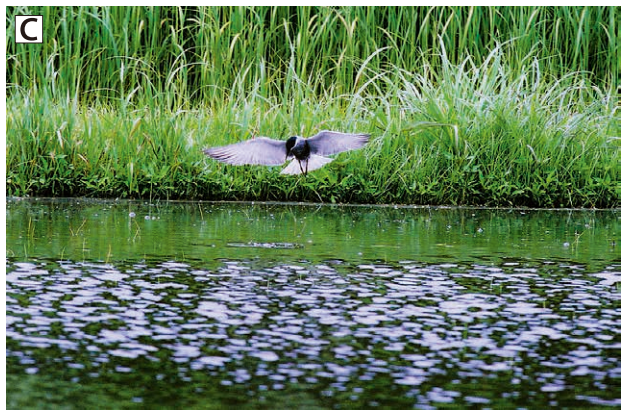
滞在は1～2日間であったようである。アマサギの食性が動物食であることから両種は共通しており、行動を共にしていたようである。

本報告を行うにあたり、発表の機会を与えて頂いた広島県立廿日市特別支援学校の上野吉雄氏に厚くお礼申し上げます。

## 引用文献

- Beaman M, Madge S (1998) The Handbook of Bird Identification: For Europe and the Western Palearctic. Christopher Helm.
- Harris A, Tucker L, Vinicombe K, (1993) The Macmillan Field Guide to Bird Identification. Macmillan Press Ltd.
- 茨城県 (2000) 茨城における絶滅のおそれのある野生生物—茨城県版レッドデータブック〈動物編〉. 茨城県.
- 日本野鳥の会広島県支部 (2002) ひろしま野鳥図鑑 増補改訂版. 中国新聞社.
- 大西敏一 (2009) コアジサシ. BIRDER 4 : 13-15. 文一総合出版.
- Sibley DA, (2001) The Sibley Guide to Bird Life & Behavior. Alfred A. Knops.
- Sinclair I, Ryan P, (2003) Bird of Africa south of the Sahara. Struik Publisher.
- Svensson L, Grant PJ, Mullarney K, Zetterstrom D (1999) The Most Complete Guide to The Birds of Britain and Europe. Harpey Colluis Publisher.
- 高野伸二 (2007) フィールドガイド日本の野鳥. 日本野鳥の会.
- 漆谷光名 (1996) 三次市でクロハラアジサシを確認. 比婆科学 192 : 78.





A : クロハラアジサシが採餌していた水田 2009年7月5日  
B : 水田に降り立ったクロハラアジサシ 2009年7月5日  
C : 採餌するクロハラアジサシ 2009年7月5日  
D : 上空を飛翔するクロハラアジサシ 2009年7月5日  
E : 飛翔するクロハラアジサシ 2009年7月5日